

ニセコ町観光振興ビジョン 【中間点検】

1. 背景と目的

2022年3月に策定したニセコ町観光振興ビジョンは、2028年度までの観光振興計画となり、2023年7月に指標を追加設定する形で更新したところです。他方で、観光振興ビジョンの策定後、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が一段落するとともに、生活物価の高騰などにより、観光を取り巻く状況が変化しており、2025年度が観光振興ビジョンのちょうど中間年であることから、このたび中間点検を実施することとしました。

本中間点検では、すでに達成済みの指標の見直しを行うとともに、観光振興ビジョンに沿った施策の実施に向けた財源として、町が目指してきた宿泊税の導入もはじまったことから、これまでの施策の振り返りと今後の活用について、整理することを目的としています。

2. ニセコ町観光振興ビジョンに掲げる将来像

グリーンシーズンの観光客の減少をはじめとした夏冬の繁閑差の拡大や、材料、雇用、サービス等の町内調達率の引き上げによる観光経済波及効果向上の重要性、地域内における二次交通の充実の必要性、観光の効果の見える化等による町民の観光に対する理解及び参画の促進といったニセコ町の観光における課題を踏まえ、ニセコ町が目指すべき将来像を「町民や観光客から信頼される、持続可能な国際リゾート」と設定し、3つの目指すべき地域の姿を掲げています。

将来像

町民や観光客から信頼される、持続可能な国際リゾート

目指すべき地域の姿 1

成熟した通年型の
国際リゾート

- ✓ オフシーズンのない、国内外から支持される地域
- ✓ 環境に配慮したサービスや商品が提供されている地域
- ✓ 魅力的な職場として若者から観光産業が選ばれる地域

目指すべき地域の姿 2

高品質・高付加価値の
国際リゾート

- ✓ 自然・歴史・文化を活かした地域ならではの本物の観光体験（ユニーク&オーセンティックな体験）ができる地域
- ✓ 観光客が安全でストレスを感じずに楽しめる地域（アクセシビリティとユニバーサル）

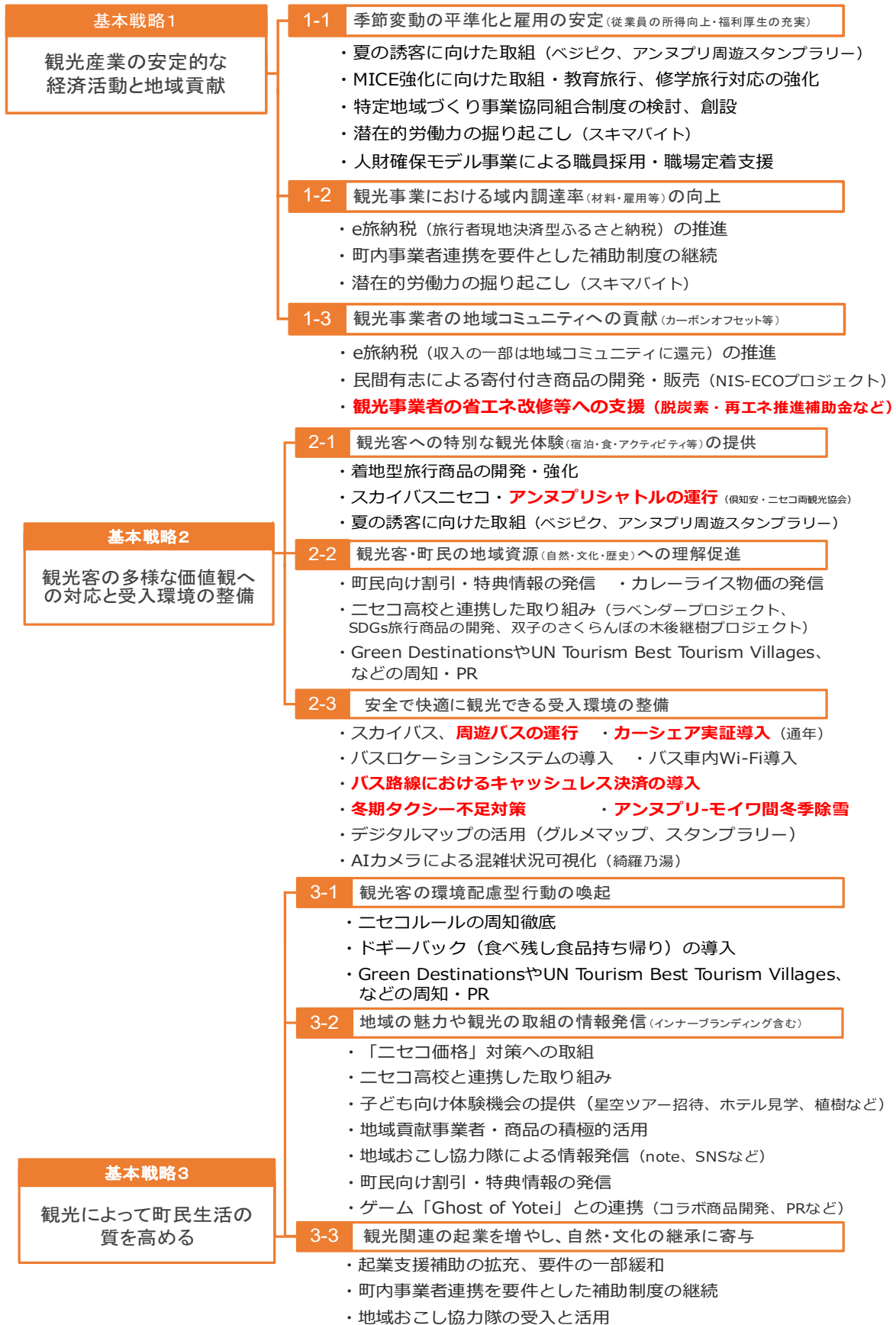
目指すべき地域の姿 3

町民が誇れる
国際リゾート

- ✓ 観光客・観光事業者・町民が互いを認め、地域の自然や文化の魅力を理解し、環境等に配慮した行動をしている地域
- ✓ 町民が観光の恩恵を実感できる地域

3. 基本戦略と施策の方向性及びこれまでの取組

目指すべき将来像を実現するため、3つの基本戦略とそれに紐づく施策の方向性を掲げ、これまでに以下のように様々な取組を実施してきたところです。また、一部の施策の実施にあたっては、2024年11月より導入したニセコ町宿泊税も活用しています。（赤字：宿泊税充当事業）



4. 数値目標(KPI) ※関連指標含む

本ビジョンでは、2019年度を基準として、10年後の目指すべき観光地の在り方を示す数値目標を設定し、目標達成に向けた取り組みを進めてきました。これまでの取組等により、すでに目標を達成している指標もあり、当該指標については、目標の上方修正を行うとともに、ニセコ町観光審議会でごいただいたご意見も踏まえ、一部指標については、見直しを行いました。もっとも、本ビジョン策定時に目指した閑散期の宿泊者数の底上げ（新規顧客の掘り起こし含む）による消費単価の向上及び観光消費額の向上、観光による消費が地域経済波及効果を生み、町民が豊かさを実感するとともに、観光客の満足度も向上する、宿泊者1人1泊当たりのCO₂排出量を削減して観光分野でも景観・環境保全に取り組んでいくといった根本の考え方に変更はありません。

数値目標	変更点
【指標1】 観光消費額	目標の上方修正
【指標2】 延べ宿泊者数	変更なし
【指標3】 観光客満足度	上方修正、名称変更
【指標4】 リピーター率	「新規来訪率」へ指標を変更
【指標5】 宿泊客1人1泊当たり CO ₂ 排出量	変更なし
【指標6】 観光で生活が豊かになると 思う町民の割合	変更なし

数値目標	令和元(2019)年度	令和10(2028)年度
【指標1】 観光消費額	407.9億円	640.0億円
【指標2】 延べ宿泊者数	47.3万人	80.0万人
【指標3】 観光客満足度 (尺度7段階のうちの最上位【大変満足】の割合)	21.3%	40.0%
【指標4】 新規来訪率	17.3%	30.0%
【指標5】 宿泊客1人1泊当たり CO ₂ 排出量	27.3kg/人・泊	15.3kg/人・泊 ※44%削減
【指標6】 観光で生活が豊かになると 思う町民の割合	40.0%	60.0%

【関連指標】

○リピーター数（関連：指標2、指標4）

ニセコ町における新たな地域の魅力を創出し、常に新規顧客を掘り起こしていくことが重要であるとの考えから、元々「リピーター率を下げる」という指標を設定していたが、観光審議会などで分かりにくいとの声が寄せられたことから、考え自体は変更せずに、今回新規来訪率を指標として新たに設定した

ところでは、他方で、成熟した国際リゾートを目指していくにあたっては、滞在時のサービスなどに対する評価、満足度が高い結果がリピートにつながっていくことから、新規顧客のみならず、リピーターを増やしていくことは重要であると考えているため、リピーター数の増加を目指していくこととし、特に宿泊に係るリピーター数を関連指標として設定することとします。

・リピーター数 令和元（2019）年度：38.3 万人 ⇒ 令和 10（2028）年度：56.0 万人

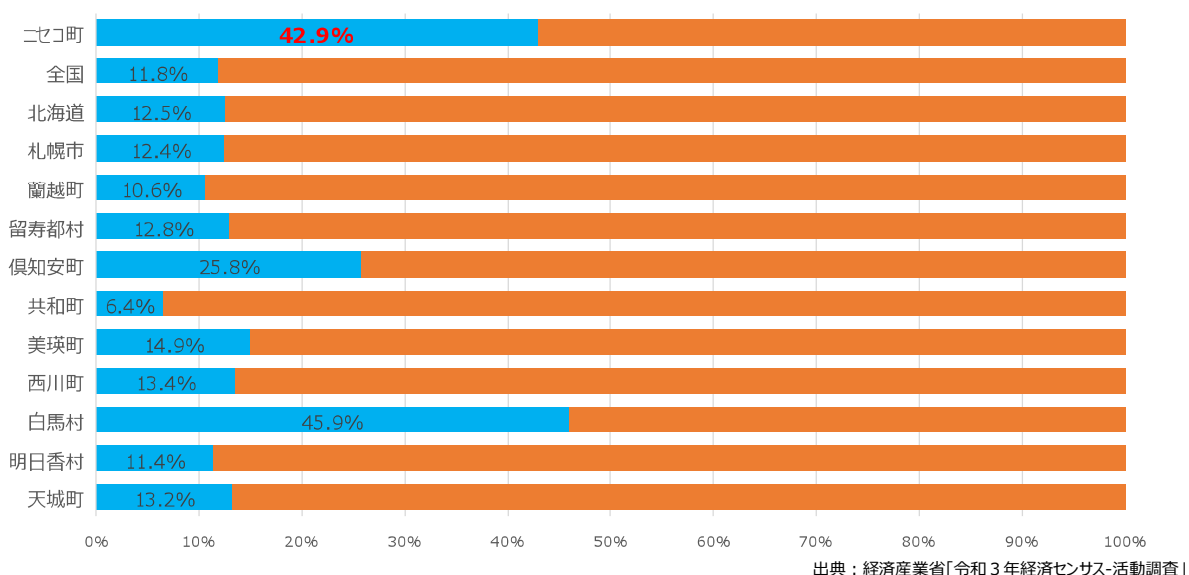
5. 観光による効果の見える化

「ニセコ町は農業と観光のまち」というように、観光産業はニセコ町の基幹産業の1つです。「町民や観光客から信頼される、持続可能な国際リゾート」を目指していく上では、観光客や観光産業のみならず、地域住民をはじめとした地域社会もステークホルダーとして考慮すべきであり、そのような考えた方が国際的なスタンダードになってきています。観光による影響の測定・管理を行い、観光が私たちの暮らしにどのように関わっているのかを見える化することが、持続可能な観光地域づくりを推進していくうえで重要と考えています。観光が私たちの暮らしにどのように関わっているかについて、目標設定は行いませんが、今後定期的にもモニタリングしていくこととします。

○観光産業が町内雇用における割合 ※「宿泊・飲食業」、「生活関連サービス」

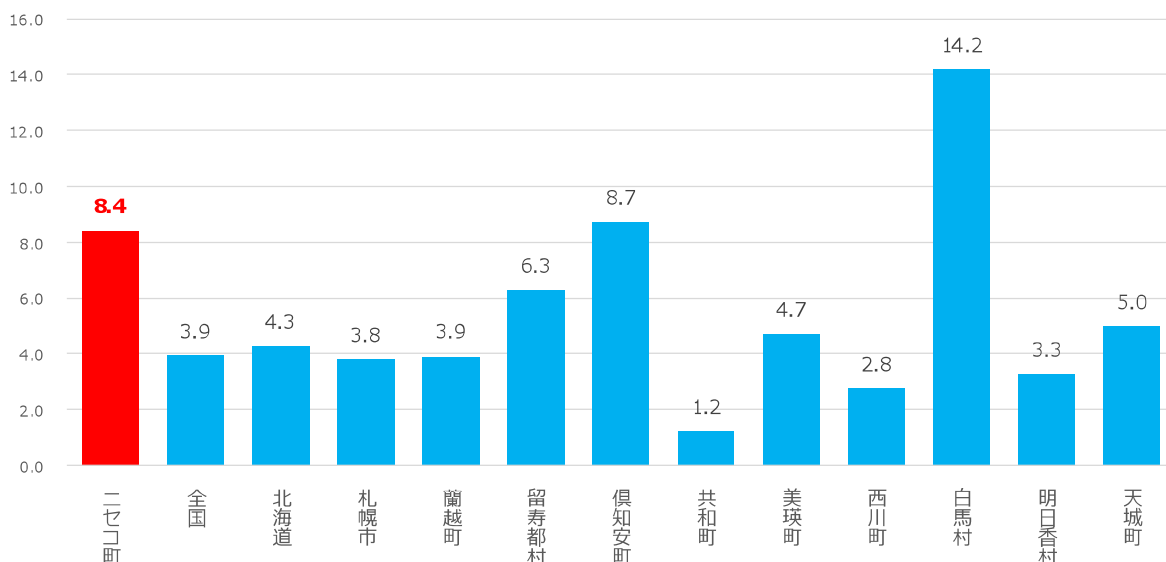
観光産業は非常に裾野が広く、宿泊業に加えて、飲食業、レジャー業、リネン業など、様々な業種が観光産業といえます。ニセコ町の近隣町村や、ニセコ町が認定を受けているベスト・ツーリズム・ビレッジに同様に認定されている町村などと比較すると、観光産業※がニセコ町の雇用における割合は非常に高く、全体のおよそ4割を占めています。

※日本標準産業分類のうち、「宿泊業・飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」を観光産業と推定



○人口1,000人当たりの飲食店数

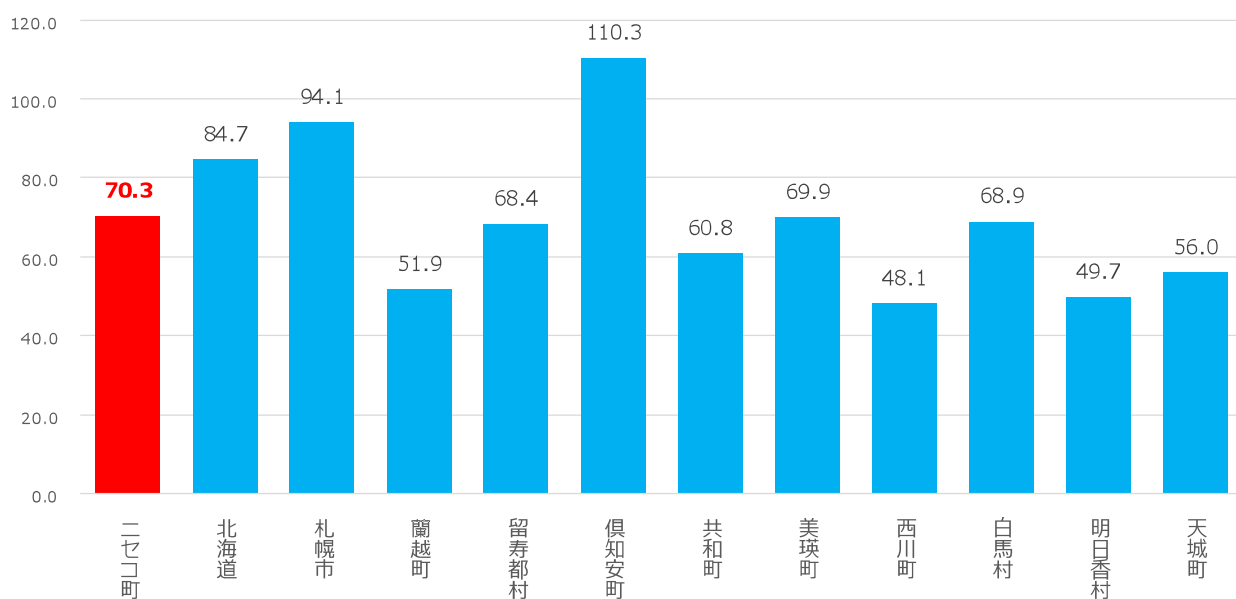
観光地であることにより、地域経済が活発化すると、様々な選択肢が増えるというメリットがあります。ニセコ町における人口1,000人当たりの飲食店数は8.4店となり、雇用同様に、近隣町村などと比較すると、数が多いことが分かります。



出典：経済産業省「令和3年経済センサス-活動調査」
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」

○地域経済循環率

観光による効果の見える化のわかりやすい指標の1つが、経済効果です。飲食店やホテルで提供される料理の食材、土産品等の材料の仕入れ、従業員の雇用などを、できるだけ町内で調達することにより、観光に関連する消費の町外への流失を抑え、町内で循環させることで、町民の暮らしの豊かさにつながっていきます。ニセコ町の地域経済循環率を見てみると、70.3%となっており、雇用、飲食店数同様に、近隣町村などと比較すると、比較的高めの割合となっている。他方で、ニセコ町のような人口5,000人規模の町では、リネンなどといった関連サービスや雇用すべてを町内でまかなうことは難しいため、どの割合を目指していくべきかを目標として設定するのは難しいが、観光経済効果の最大化が観光消費額をはじめとした指標の達成に資すると考えられることから、観光関連サービスの起業支援、町内での消費促進にも取り組んでいきます。



出典：環境省「地域経済連関表」、「地域経済計算」

6. 宿泊税の活用

2024年11月にニセコ町宿泊税が導入されましたが、使途の決定にあたっては、町内事業者・町民から様々な場でご意見を伺った上で決定することとしています。これまでは、ニセコ周遊バスの運行、冬季タクシーの増台、カーシェアの通年化、林道の除雪、道路の砂撒きなど二次交通の充実を中心に活用してきたところです。依然として二次交通の充実は観光課題の1つであるため、今後も継続して活用していきますが、ロードヒーティングの実施、Wi-Fi導入に向けた調査の実施といった観光地としての受入環境整備に加えて、足元で課題が顕在化しているグリーンシーズンの観光誘客に向けて、プロモーションやコンテンツ整備を図っていくとともに、その中核組織となるニセコリゾート観光協会の人的、組織的な強化にも活用していきます。

また、地域内交通の充実の一環としての自動運転の実証検討や、道の駅の再整備ほか温水プールの整備検討といった観光施設の充実、ニセコの生活の基盤である景観や環境を保全していくためのごみ問題・浄化槽問題への対応など、中長期的な対応が必要な事業も想定されるため、みなさまのご意見を伺って決定していくというプロセスに変更はありませんが、必要に応じて基金への積み立ても検討していきます。

ニセコ町宿泊税 活用事業イメージ



①地域内交通の充実

- ニセコ周遊バスの拡充運行
通年化、両回り等の検討
- 冬季移動利便性の向上
 - ・町道ロードヒーティング実施
 - ・モイワ⇄アンヌプリ間等の除雪実施
 - ・登山道、一号線における砂まきの実施
- オーバーツーリズム対策
ニセコモデル、カーシェアの継続

②受入環境整備、観光地魅力向上

- Wi-Fi導入支援
今後エリアでWi-Fi導入する際の調査事業
- イベント開催支援
イベント等の開催に係る各種費用を支援
※複数者で連携する場合は、補助率アップ
- MICE等誘致委託
MICE実施時の会場代・バス代等の支援

③観光協会等のさらなる強化

- 組織体制の強化
 - ・コンテンツ創出等のための人材強化
 - ・地域観光をマネジメントする体制の強化
 - ・NPB、羊蹄山麓ほか広域観光の推進

④持続可能な観光地域づくり

- 町内事業者の基盤強化
 - ・キャッシュレス決済導入等DX推進補助
 - ・脱炭素、再エネ推進事業補助金の継続
- 夏季の誘客に向けた取組の実施
 - ・夏の誘客に向けたプロモーションの実施
 - ・グリーンシーズンのコンテンツの充実
- 景観・環境保全等
 - ・ニセコルール、なだれ情報の継続

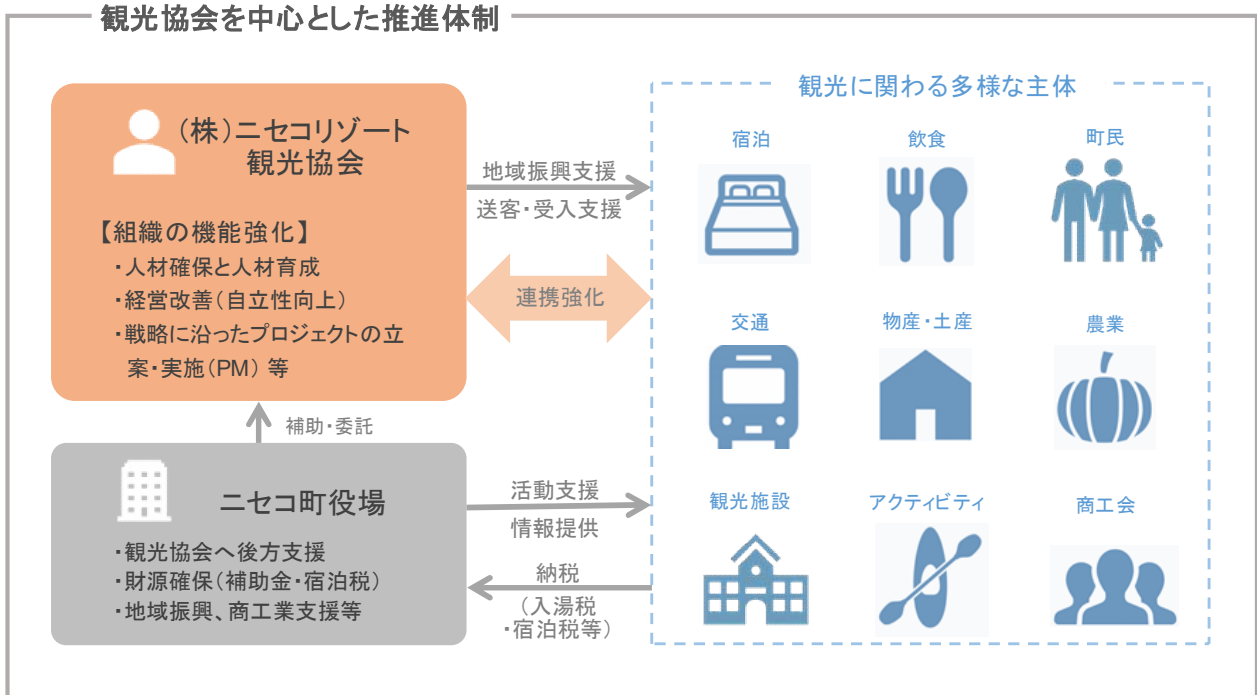
⑤特別徴収義務者事務負担支援

宿泊税の5% ※他自治体は2.5~3.5%

※このほか中長期的な活用事業として、自動運転の実証、観光施設の充実、ごみ問題、無電柱化等への対応も想定

7. 推進体制／役割分担

持続可能な観光地マネジメントを担う中核組織として、ニセコリゾート観光協会を位置づけ、宿泊税も活用しながら、人的、組織的な機能強化を図ります。推進主体は、観光事業者だけでなく、町民をはじめ多様な主体が互いに連携・協働しながら、官民一体となって本ビジョンを推進していきます。



実施主体	役割
観光協会	観光地域経営の観点でマーケティング・プロモーション、旅行商品造成等の知見を有し、地域マネジメントの中核的な役割を果たす。本物志向でサステナブルな商品やサービスの提供（MICEや教育旅行の受入（旅行商品造成）や町内の食材を使った土産品・特産品の開発など）を行う。また、そのような商品やサービスの提供に組みたいと考える町内事業者への支援などを行う。
町民	町民一人ひとりが、地域の自然・歴史・文化への知的好奇心を持ち、自ら学び、楽しむことで、地域への愛着や誇りを持つ。雄大な自然やそこで育まれた歴史や文化を次世代につなぐとともに、観光客との交流を通じて、地域の魅力を町内外の人たちに伝える（発信する）。
町内事業者	国内や海外から訪れる観光客の多様なニーズに対し、ニセコ町ならではの自然や食材等を活かした本物志向でサステナブルな商品やサービスの提供を行う。事業を通じて地域の自然・歴史・文化への知見を深め、自らの事業に誇りを持ち、地域とともに発展を目指す。
商工会	経営的な観点から、起業や事業継承等の町内事業者の支援・指導等を行う。また、町内事業者の商品力向上やサービスの向上のためのセミナーや勉強会を行う。
行政	役場内の商工観光課だけでなく、関連する課と連携し、観光振興施策を講じる。国や道の補助金をはじめ、入湯税や宿泊税等の財源も活用し、観光協会や町内事業者の支援を行う。